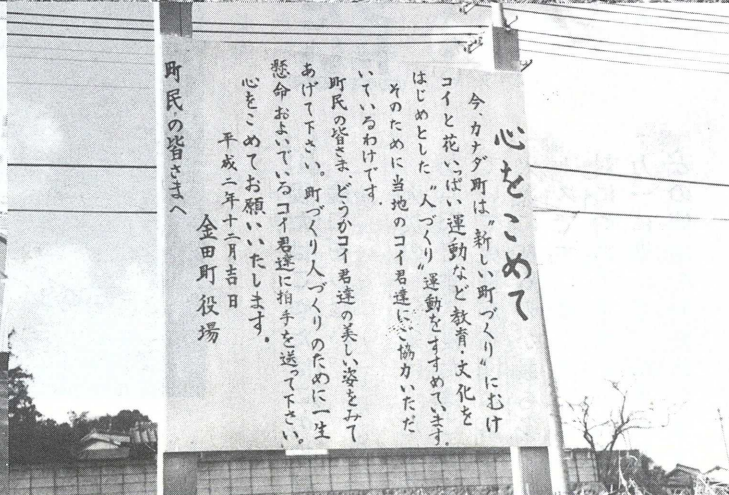
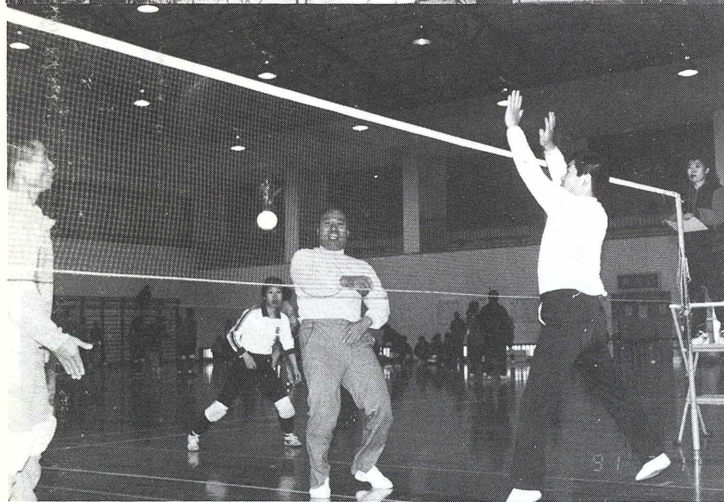
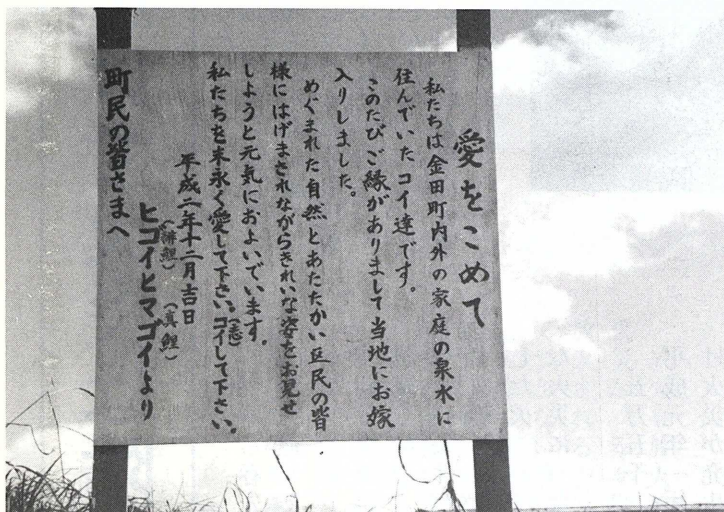


カナダ

2・3

Feb. & Mar.

あなたのゆーたうんKANADA



日ごろの心がけで火災は防げる

「春の全国火災予防運動」が、三月一日から七日まで実施されました。この時期、消防署では消防訓練をはじめ、さまざまな行事が行われました。これらの行事に積極的に参加し、日ごろ忘れがちな火災の恐ろしさを、改めて思い起こされたことと思います。また、火災を出さないため何をすればよいか、これを機会に家族会議を開いて話し合ってみてはいかがでしょう。



年末の深夜、火災予防を拡声機で呼びかける地区消防団の皆さん(Ⅰ)

冬から春先にかけてが、一年を通じて火災が最も多いのを存じですか。この時期は空気が乾燥して強風が続くなど、火災が発生しやすい条件がそろっています。それだけに、ちょっとした火への不注意が、大きな火災につながります。

五万五千七百六十三件、平成元年一年間に、これだけ火災が発生しました。死者は、千七百四十七人で、一日約五人の割合で亡くなっているのです。火災の種類で、最も多いのは建物火災です。一日に約九十六件十五分に一件の割合で発生しています。こうした火災の多くは、日頃の心がけでかなり防ぐことができます。



**知ってあきたい
七つのポイント**
家庭から火事を出さないようにするには、どのような点に気をつければよいのでしょうか。火の用心を兼ねた七つのポイントをまとめてみました。

①寝たばこやたばこの投げ捨てをしない。

火災の一〇％は、たばこが原因です。寝たばこをしていて火種が布団に落ち、火災になるのが最も多いケースです。寝たばこは、絶対にやめて下さい。さらに万が一に備えて、防火寝具などの使用をお勧めします。

②ストーブには、燃えやすいものを近づけない。

物を干すのも危険です。

③カーテンや写真などのそばに、ストーブを近づけてはいませんか。これらは燃えやすく危険です。ストーブを離しておきましょう。

これら七つのポイントを確認し、家族で一人一人が実践するようにしましょう。さらに、旅館・ホテルを利用する場合には、「適マーク」の有無を選択の目安とすることも忘れないで下さい。

④天ぶらを揚げるときは、その場を離れない。
こんろ火災の多くは、天ぶら油によるものです。もし、天ぶらを揚げているときにその場を離れる場合は、必ず火を消してからにしましょう。また、家庭用消火器を、台所にぜひ一本備えてください。

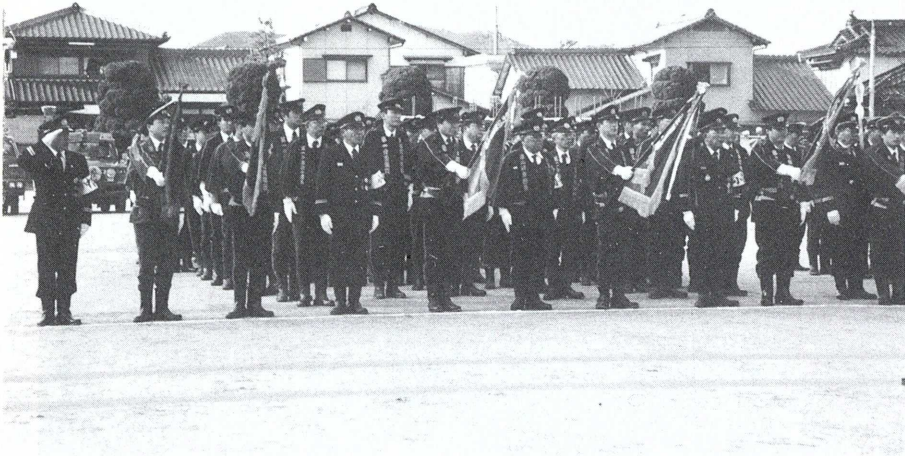
⑤家のまわりに、燃えやすいものを置かない。

⑥ふろの空だきをしない。
放火や放火の疑いによる火災が、年々増えています。放火されるのは深夜、人目につかない時間帯がほとんどです。家のまわりに燃えやすいものを置かないようにするなど、放火されない「環境づくり」をしましょう。

⑦空だきの原因は、水が入っていると思って点火したという、うっかりミスが多いのです。点火するときに水がきちんと入っているこ

②子供には、マッチやライターで遊ばせない。
また、路上でのたばこの投げ捨ても火災の原因になりやすいので、灰皿のない場所での喫煙はやめましょう。

③風が強いときは、たき火をしない。
たき火をするときは水を

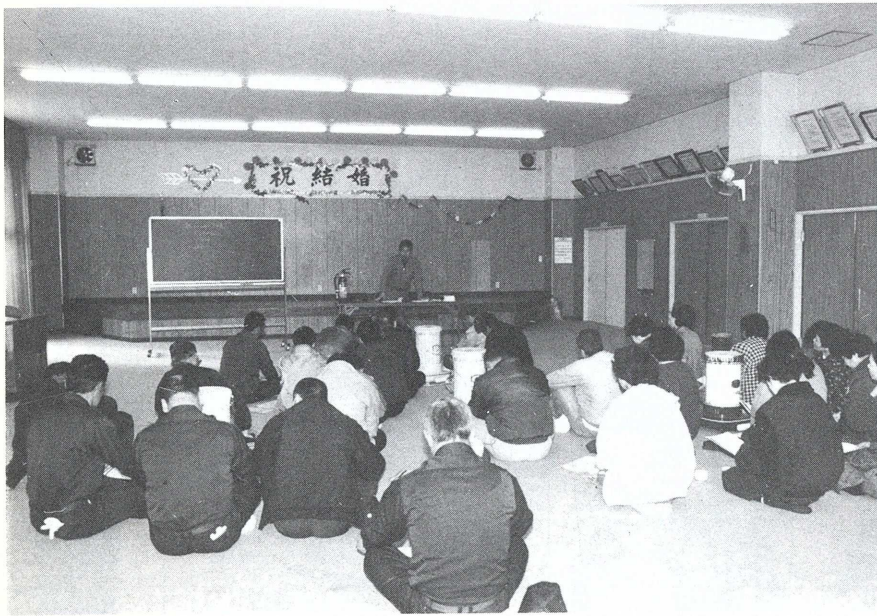


出初め式において、整然とした金田町 消防団の皆さん

ようにししましょう。火の恐ろしさを、子供に教えておくことも大切です。

たき火をするときは水を

用意し、火が消えるまではそばを離れてはいけません。たき火が終わってから、水を



消防署より講師を招き「防火教室」を開催する第二行政区(地区公民館主催)